

## 白山山麓のある酸性岩類に伴なう

### *Glyptostrobus* 属について

松尾秀邦 愛媛大学理学部

#### ON THE GENUS *GLYPTOSTROBUS* FROM THE LATE CRETACEOUS ? ACIDIC ROCKS IN THE PIEDMONT DISTRICT OF MT. HAKU-SAN.

Hidekuni MATSUO, *Department of Earth Science, Faculty of Science, Ehime University, Ehime*

今から 20 年程前に金沢大学学生長谷川恵一君の卒業論文(石川県河内村直海谷川流域の地質)の指導で直海谷(のうみだに)流域を調査したことがある。その時、上流の内尾(うつお)付近に露出している内尾谷礫岩層の下位に存在する流紋岩質角礫凝灰岩で *Glyptostrobus* の球果を採集したことがある。

その時は、前年度に進級論文調査のため、石川・福井県境の谷峠付近を歩いた際の大道谷植物群に *Glyptostrobus* sp. をみつけていたので、直海谷の流紋岩質角礫凝灰岩を面谷流紋岩類(濃飛流紋岩類の一部)の一部と考えていた。

その後、西南日本の中生代末期の酸性岩類に伴なう植物群、中でも本年(昭和 56 年)5 月に発見した神戸市兵庫区道場町における球果植物を取扱っている間に、先刻の *Glyptostrobus* sp. の存在を思い出したのである。

そこで、本年 7 月 19~21 日にかけて、東野技師と同行、直海谷川流域を検したが、*Glyptostrobus* の球果を産出した露頭は不明のままに終わったのである。

機会があつて、金沢に出向いた 9 月 28 日に長谷川君の卒論をみて、自己の記憶が間違いであるとすより外に術のないことが書かれていた。

それは、*Glyptostrobus* の球果が内尾谷礫岩の砂岩・頁岩薄層の互層に存在したというのである。20 年前の記憶を迎れば、これは間違いであると思う。記憶では内尾層であつて、流紋岩質角礫凝灰岩に挟在する白色凝灰岩(風化部は褐色を呈す)である。今となつては当時の野帳も化石もない以上、水掛論の域を脱しないことである。

しかし、この化石の存在は後期白亜紀酸性岩類に伴なう植物化石としては重要であつて、先述のように大道谷植物群と対比される時に有効なものであると思うので、*Glyptostrobus* 属について述べる。

我が国では上部白亜紀(大道谷植物群)から新第三紀(台島型植物群)まで産出し、暖温帯以上の植物群にのみ見られる。世界的には古第三紀(始新世植物群)が繁栄の頂点であつて、欧州大陸では始新世及び漸新世の示準化石の一つとなっている。

現在は一属一種(*Glyptostrobus lineatus* = *G. pensilis*)が広東・福建・江西省の水辺にみられ、広東省に最も多く存在し、その分布は限られている。この現象は他の球果植物(例：*Taxodium*, *Metasequoia* など)にも同様の分布状態を示し、中生代以降のある時期に栄え、現在は一属一種として、局部的にあるいは点的に分布を示す"生きてる化石"の標本の一例である。

また、球果鱗片に特異な形態を示す *Glyptostrobus* 属は判定を誤るようなことがないので、化石植物群の中でも簡単に見分けられ重要なものの一つである。

直海谷川上流産が濃飛流紋岩類の岩相と同じ地層から産出したことは大道谷植物群と同一層準と考えられるのであるが、北陸地方においてそれより若い時代となれば医王山累層のような温暖帯性堆積層に見られるのみであると判断される。

いずれにしても、白山々麓には上部白亜紀から新第三紀の酸性岩類が時代をへだてて存在するので、*Glyptostrobus* の球果のみの産出で地質時代を決めるわけにはゆかないが、今のところは上部白亜紀のものと思っているので、今後の調査もこの点を考慮して地層を検討する必要がある。